

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270400167		
法人名	特定非営利活動法人 三山ホーム		
事業所名	グループホーム三山ホーム 1階		
所在地	伊東市八幡野1261-14		
自己評価作成日	令和2年8月31日	評価結果市町村受理日	令和2年11月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&jiyosyoCd=2270400167-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和2年10月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「その人らしさと笑顔を大切に」を理念とし、日常生活の中で笑顔あふれる一日を過ごせるように支援しています。今年はコロナの為、地域との交流は、控えさせて頂いた分ホームの中で出来るレクリエーションに力を入れています。防災訓練は年6回その内3回は、夜間想定にて実施しています。自然豊かな所ですので、散歩や、ランチを庭さきでいただいたり外での行事が日常的にしています。運動会、文化祭、さんま祭り、クリスマス会等出来る範囲で、開催していきます。地域の人達が、気軽に立ち寄れるように、玄関席にテーブルを置いて小さなサロンがいつでも出来るようにしています。バリヤフリーでない分、生活リハビリとして活用しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

目を見張るほど掃除が行き届いた共用空間は、以前企業の保養所だったことから全てが広々としていて、利用者から「いつまでも旅行気分」が味わえると評されています。プランターにはズッキーニや季節の花を咲かせ、10月だけでも「ホットドックパーティー」「お誕生日パーティー」「さんま祭り」「フィリピン手作りおやつ」「ハロウィン」と所内行事が目白押しで、午後のレクリエーションにはY. M. C. A. の曲に乗って、キレキレのダンスに興じる利用者の姿があります。玄関がオープンなことから、盲目の事業所犬アリスが出てしまうと戻ってこれなくなると心配する様子も微笑ましく、想いおもい自由に過ごしていることが覗えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットごとに1年の目標を立てて理念にある「その人らしく」に添って支援しているか職員会議で検討している。	理念はトイレにまで及んで掲示して、意識が途切れないよう図っています。理念の一つである「貧しい国の人たちに」は、フィリピンに無償の介護施設を開設(現在はコロナで休止中)、介護の実習生も快く受入れ、日比のプチ親善大使の役割を担っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ホームで開催の文化祭も地域の人達に見学して頂いている。今年は、コロナの影響で納涼祭は、中止になりましたが、来年は、参加して頂きたい。	フォークダンス、紙芝居、歌、手遊びなどのボランティアやイベントにはシンガーソングライターや尺八のほか子どもフラダンスが来訪しており、レイをかけてもらえて利用者も嬉しく、非日常を演出する交流行事が目白押しでしたが、コロナ禍で全て中止となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	玄関にテーブルを置き、気軽に相談出来るようにしている。電話にて相談も受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方々に地域の行事等を教えて頂いている。自己評価の内容や、外部評価の結果等報告し、意見をお聞きしている。	4月、6月、8月の運営推進会議は書面開催としています。外部者を入れず、利用者と職員で話し合った活動内容を書面に起こし、行政をはじめメンバーに郵送しています。メンバーには意見を求めています。今のところ返信はありません。	運営推進会議メンバーとの関係が途絶えることが心配されます。月に1度程度でも電話や季節のお便りで連絡を取り合うと、なお良いと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の方もいらっしゃるの、連絡は密にしている。	独居・徘徊といった環境や症状から警察のお世話になることが重なった人を、市役所と地域包括支援センターの依頼で受入れたほか、生活保護受給者も7名います。小規模部会が年4回、地区の事業者連絡会も不定期ながら継続されてきましたが、今のところ休止です。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員の元、身体拘束しないケアに取り組んでいる。玄関は、日中は鍵をかけていない。言葉の拘束には、特に気をつけている。	指針を整備して「身体拘束廃止委員会」を3ヶ月に1度開催しています。海外から移住してきた職員は日本人より親切と評判で懸念はありませんが、スピーチロックは個々の癖のようなところがあり、まったくないとは言えません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、勉強会を開催し職員全体で、共有している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人をつけている方もいるので、いろいろ教えて頂いている。研修会に参加し、内容を職員で共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用時に説明し、納得して頂いたら、書面にサインをして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に入居者の状況を説明したり、ケアプラン更新時には、アンケートをし、意見や要望等をお聞きし運営推進会議で発表し、意見をお聞きしている。	面会自粛のとき「窓越しでもいいから会いたい」との要望を甘受し、玄関先で(対面を避け)短時間の面会をしてもらったり、引きだしの中の掃除についての苦言を即是正したりと、「届いた声を快く実現する」ことで言いやすい関係が出来ていることが見てとれます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別にも意見を聞き、職員会議にも参加し意見を聞いている。1ヶ月毎、行事担当者がかわり、職員が行事を決めている。	代表者が常にいるわけではないので、職員の意見や要望は管理者が橋渡しをしており、オープン以来18年勤務の職員が2名いるほど、定着率は高く、チームワークが安定しています。また希望休は4日まで受けるなど、処遇向上にも力を入れています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	子育ての方もいるので、働く時間帯を、考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながら介護福祉士を目指している。トライアル雇用も採用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の小規模部会に参加し意見交換している。他のグループホームとイベントや勉強会をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、利用者・家族に見学に来て頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家に訪問したり、他の施設にいる場合も訪問して、様子を見させていただいたり、様子をお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話を聞きながらグループホームではないような場合は、他のサービス(デイサービス・小規模多機能等)を説明し紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お掃除、食器拭き、植木の水くれ等役割分担ができています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行きつけの美容院、病院等家族と行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの近所の方が訪問したり、家族となじみのお店に行ったり、タバコや好きなモーニングコーヒーを飲んだり、好きな美容院に出かけている。	「毎日新聞を読む」「喫煙」などの習慣を続ける人のほか、モーニング珈琲を6時の定時にこだわる人、花の水やりをしないと1日が始まらない人の想いに寄り添い、新聞は定位置に置く、水やりの量が多い少ないの調整など、職員が黒子として継続の支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	長い間の友人関係みたいなのができる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、庭の手入れや野菜の差し入れ等して頂いている。何年も年賀状のやり取りをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別に買い物や、散歩等している。生活歴を作成し職員で共有し、ケアに役立つようにしている。家族の希望は、面会時や、アンケートでお聞きしている。希望に添えない場合は、すぐ添えない事を伝え代案を提示している。	「その人らしさ」を理念に謳い、それを背景にセンター方式を活用して利用者本人の好みや口癖などが整理、把握されています。調査者に気軽に話しかけてくださる利用者の様子からも自由度の高さが垣間見え、愛犬アリスが利用者のオープンマインドに貢献していることも覗えます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族に生活歴をお聞きしセンター方式に記入し職員で共有しケアにつなげている。他施設からの時は情報提供書を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今出来る事を職員で共有し、タバコを吸いたい方には、喫煙所を設けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の状態に変化があった場合その都度変更している。本人や、家族にお聞きしたり、アンケートに記入して頂き、今必要な事を支援している。	カンファレンス、モニタリングともに不定期開催で、変化や課題があった時に集まって話し合っています。海外育ちの職員も伴侶が日本人だったり、日本生活が長い為、記録や競技に支障はありませんが、サービス内容は具体的で大変分かり易く表記されています。	2表のサービス内容の担当者が現在は介護職員のみですので、家族や地域資源などが入り、関わる人が増えることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態により個別の記録をかえている。サービス担当者会議で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨機応変に対応している。今の状態の支援をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	草取りや散歩、足湯、買い物、好きな歯医者さん等支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人の希望で主治医を決めている。馴染みの病院の受診時は、バイタル表や状態を記入し持参していただいている。職員が同行し説明する事もある。	定期医療を受けていない人が1名、家族の付き添いを得てこれまでのかかりつけ医に通院する人が2名、15名が事業所の協力医に変更、月1回の訪問診療を受けています。診察の場にはその日勤務の職員が立ち合い、往診ノートに記録を残しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報を伝えている。特変時には、特に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医、相談員、家族とよく相談し、早期に退院できるように支援している。入院期間は1ヶ月猶予をおいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、その都度家族と相談させて頂いている。終末期については、本人、家族、主治医と相談して決めている。特養、老健の相談員さんとも連絡し支援している。延命についてもお聞きしている。	契約時には「看取りをします」と宣言していませんが、訪看から週1回訪れる看護師の存在も心強く、その時の家族の要望や状況をみて受けることを検討しています。折り鶴に「笑顔がありがとう」としたためたり、枕花、3日間のろうそくの灯など、旅立ちにも奉仕の精神が滲みます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修に参加し、勉強会を開催し職員全体で、共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年6回防災訓練をしている。内3回は、夜間想定でしています。地域の人達にも協力をお願いしている。火災だけでなく、地震や強風の場合も想定している。備蓄は確保してある。	法定訓練2回を越え年6回を旨とし、消防署にも6回分の計画を提出しています。3回を夜間想定で実施、防災業者には2回に渡りスプリンクラーなど機器チェックをお願いしています。非常食は1週間分ほどあり、訓練の炊き出しで順次入れ替え、水はトイレ用備蓄に廻しています。	昨今の気象状況を鑑みるに、風水害マニュアルについては、あらためて現状に合ったものか見直すことを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「その人らしく」過ごせる様支援している。申し送り時は、部屋番号でしている。トイレ誘導の時の声かけも気をつけて誘導している。	ノックした後、間合いをおくといった具体的な配慮方法についても指導をおこない、「利用者の近くでの申し送りでは部屋番号をつかう」「トイレ誘導は耳元で小声」などが励行されています。また職員の男女比のバランスがよく、同性介助の希望にも円滑に応えることができます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好きなタバコを吸われる方や、モーニングコーヒーを飲まれる方、イベントに参加されない方もいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分のペースで生活している。散歩に行きたくない時は、お部屋でテレビをみている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとに家族に連絡し、支援している。お気に入りの美容院に出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事料理、季節の料理、お誕生会等、イベントとして食事を楽しんでいる。季節の旬の物を提供している。きざみ、ペーストでも対応している。	1月のお節料理から始まり、「寒くなったねエ、お鍋にしよう」との思いつきも含め、成人式、海の日、山の日と祝日は時節料理を提供しています。近所や知人から届いた米や野菜をヒントに決めることもあり、おやつレクリエーションは臨機応援で月10日ほど実施しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食チェック表に記入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間の排泄表を活用し、支援している。日中布パンツで夜間パンツ対応でぐっすり睡眠して頂く方もいる。夜間帯トイレまで来れない方は、ポータブルトイレを使用して頂いている。	24時間の排泄チェック表をつけて、声かけを本人のリズムに合わせておこなうことで、リハパンから布パンツに向上した例もあります。また、夜間はオムツでも日中はリハパンで過ごしてもらい、できるだけトイレを使えるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ラジオ体操し、朝食時には、ヨーグルトを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時は、よくコミュニケーションをとるよう1対1で入浴している。しょうぶ湯、ゆず湯等季節を感じながら入浴している。足湯や足浴もしている。	週3回を清潔の目安としていますが、希望で4回の人もいて、「入りたい」に応じています。普段はお湯の温度を本人の好みに合わせるとともに浴剤を使用していますが、子どもの日は菖蒲、冬至の日は柚子とかわり湯も取り入れ、レクリエーションで足浴をおこなってまいります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間は人によりまちまちです。午前中に仮眠や、午後から昼寝などしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が皆把握している。状態に変化がでたときには、主治医にすぐ報告している。薬局にも相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	タバコ、コーヒー等好きなメーカーを選んでいる。食器拭きが出来る人、掃除機をかける事が出来る人、歌が好きな人、踊りが得意な人等役割分担が出来ている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	初詣、外出、足湯、桜見物、海、紅葉狩り、お買い物等出かけている。	コロナ禍前には足湯探訪、熱川の海岸・いるか浜・赤沢など地域の観光資源を生かしておにぎり持参のミニピクニックや、100円均一、スーパーマーケットの買い物とこまめに外出していましたが、現在は人気のない場所を探してのミニドライブと周辺散策が中心です。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	人により支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や、ハガキで支援している。家族～品物が届いたときは、必ず電話している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ロビー、トイレ等に利用者さんが植木を置き水くれている。昼間と夜の照明を変えている。利用者さんと一緒に毎朝掃除をし、外の玄関先もきれいにしている。	ドアノブなど手を触れる箇所等コロナ禍前から念入りに清掃をやっていたため、現在やや回数が増えた程度で、換気もこれまで通り頻回です。外食ができなくなっていますが、「テイクアウトするくらいなら…(こちらの方が美味しい)」と、職員が腕を奮っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやイスを所どころにおいてある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思いでの品物(タンス、、イス)アルバム、好きな犬のポスター等飾っている。洋服も今までできていた物を持参して頂いている。	「足元がふらつくので手すりの位置をかえる」といった「暮らしやすさ」を支援しています。仏壇を持ち込んだ人は毎日お水を手向け、またお誕生日に身内にプレゼントされた花の鉢を日の当たる場所に運んでは、夕方また居室に戻すことを繰り返す人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーでないので、各々が自覚している。平らな所は、シルバーカーで階段は、手すりを使用している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270400167		
法人名	特定非営利活動法人 三山ホーム		
事業所名	グループホーム三山ホーム伊東 2階		
所在地	伊東市八幡野1261-14		
自己評価作成日	令和2年8月31日	評価結果市町村受理日	令和2年11月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jiyosyoCd=2270400167-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和2年10月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「その人らしさと笑顔を大切に」を理念とし、日常生活の中で笑顔あふれる一日を過ごせるように支援しています。今年はコロナの為、地域との交流は、控えさせて頂いた分ホームの中で出来るレクリエーションに力を入れています。防災訓練は年6回その内3回は、夜間想定にて実施しています。自然豊かな所ですので、散歩や、ランチを庭さきでいただいたり外での行事が日常的にしています。運動会、文化祭、さんま祭り、クリスマス会等出来る範囲で、開催していきます。地域の人達が、気軽に立ち寄れるように、玄関席にテーブルを置いて小さなサロンがいつでも出来るようにしています。バリヤフリーでない分、生活リハビリとして活用しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

目を見張るほど掃除が行き届いた共用空間は、以前企業の保養所だったことから全てが広々としていて、利用者から「いつまでも旅行気分」が味わえると評されています。プランターにはズッキーニや季節の花を咲かせ、10月だけでも「ホットドックパーティー」「お誕生日パーティー」「さんま祭り」「フィリピン手作りおやつ」「ハロウィン」と所内行事が目白押しで、午後のレクリエーションにはY. M. C. A. の曲に乗って、キレキレのダンスに興じる利用者の姿があります。玄関がオープンなことから、盲目の事業所犬アリスが出てしまうと戻ってこれなくなると心配する様子も微笑ましく、想いおもい自由に過ごしていることが覗えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットごとに1年の目標を立てて理念にある「その人らしく」に添って支援しているか職員会議で検討している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームで開催の文化祭も地域の人達に見学して頂いている。今年は、コロナの影響で納涼祭は、中止になりましたが、来年は、参加して頂きたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	玄関にテーブルを置き、気軽に相談出来利用にしている。電話にて相談も受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方々に地域の行事等を教えて頂いている。自己評価の内容や、外部評価の結果等報告し、意見をお聞きしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の方もいらっしゃるので、連絡は密にしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員の元、身体拘束しないケアに取り組んでいる。玄関は、日中は鍵をかけていない。言葉の拘束には、特に気をつけている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、勉強会を開催し職員全体で、共有している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人をつけている方もいるので、いろいろ教えて頂いている。研修会に参加し、内容を職員で共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用時に説明し、納得して頂いたら、書面にサインをして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に入居者の状況を説明したり、ケアプラン更新時には、アンケートをし、意見や要望等をお聞きし運営推進会議で発表し、意見をお聞きしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別にも意見を聞き、職員会議にも参加し意見を聞いている。1ヶ月毎、行事担当者がかわり、職員が行事を決めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	子育ての方もいるので、働く時間帯を、考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながら介護福祉士を目指している。トライアル雇用も採用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の小規模部会に参加し意見交換している。他のグループホームとイベントや勉強会をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、利用者・家族に見学に来て頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話を聞きながらグループホームではないような場合は、他のサービス(デイサービス・小規模多機能等)を説明し紹介している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話を聞きながらグループホームではないような場合は、他のサービス(デイサービス・小規模多機能等)を説明し紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お掃除、食器拭き、植木の水くれ等役割分担ができています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行きつけの美容院、病院等家族と行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの近所の方が訪問したり、家族となじみのお店に行ったり、タバコや好きなモーニングコーヒーを飲んだり、好きな美容院に出かけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	長い間の友人関係みたいなのができる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、庭の手入れや野菜の差し入れ等して頂いている。何年も年賀状のやり取りをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別に買い物や、散歩等している。生活歴を作成し職員で共有し、ケアに役立つようにしている。家族の希望は、面会時や、アンケートでおききしている。希望に添えない場合は、すぐ添えない事を伝え代案を提示している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族に生活歴をお聞きしセンター方式に記入し職員で共有しケアにつなげている。他施設からの時は情報提供書を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今出来る事を職員で共有し、タバコを吸いたい方には、喫煙所を設けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の状態に変化があった場合その都度変更している。本人や、家族にお聞きしたり、アンケートに記入して頂き、今必要な事を支援している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態により個別の記録をかえている。サービス担当者会議で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨機応変に対応している。今の状態の支援をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	草取りや散歩、足湯、買い物、好きな歯医者さん等支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人の希望で主治医を決めている。馴染みの病院の受診時は、バイタル表や状態を記入し持参していただいている。職員が同行し説明する事もある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報を伝えている。特変時には、特に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医、相談員、家族とよく相談し、早期に退院できるように支援している。入院期間は1ヶ月猶予をおいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合のことは、その都度家族と相談させて頂いている。終末期については、本人、家族、主治医と相談して決めている。特養、老健の相談員さんとも連絡し支援している。延命についてもお聞きしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修に参加し、勉強会を開催し職員全体で、共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年6回防災訓練をしている。内3回は、夜間想定でしています。地域の人達にも協力をお願いしている。火災だけでなく、地震や強風の場合も想定している。備蓄は確保してある。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「その人らしく」過ごせる様支援している。申し送り時は、部屋番号でしている。トイレ誘導の時の声かけも気をつけて誘導している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好きなタバコを吸われる方や、モーニングコーヒーを飲まれる方、イベントに参加されない方もいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分のペースで生活している。散歩に行きたくない時は、お部屋でテレビをみている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとに家族に連絡し、支援している。お気に入りの美容院に出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事料理、季節の料理、お誕生会等、イベントとして食事を楽しんでいる。季節の旬の物を提供している。きざみ、ペーストでも対応している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食チェック表に記入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間の排泄表を活用し、支援している。日中布パンツで夜間パンツ対応でぐっすり睡眠して頂く方もいる。夜間帯トイレまで来れない方は、ポータブルトイレを使用して頂いている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ラジオ体操し、朝食時には、ヨーグルトを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時は、よくコミュニケーションをとるよう1対1で入浴している。しょうぶ湯、ゆず湯等季節を感じながら入浴している。足湯や足浴もしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間は人によりまちまちです。午前中に仮眠や、午後から昼寝などしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が皆把握している。状態に変化がでたときには、主治医にすぐ報告している。薬局にも相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	タバコ、コーヒー等好きなメーカーを選んでいる。食器拭きが出来る人、掃除機をかける事が出来る人、歌が好きな人、踊りが得意な人等役割分担が出来ている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	初詣、外食、足湯、桜見物、海、紅葉狩り、お買い物等出かけている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	人により支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や、ハガキで支援している。家族～品物が届いたときは、必ず電話している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ロビー、トイレ等に利用者さんが植木を置き水くれている。昼間と夜の照明を変えている。利用者さんと一緒に毎朝掃除をし、外の玄関先もきれいにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやイスを所どころにしておいてある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思いでの品物(タンス、、イス)アルバム、好きな犬のポスター等飾っている。洋服も今までできていた物を持参して頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーでないので、各々が自覚している。平らな所は、シルバーカーで階段は、手すりを使用している。		